

岡山県感染症週報 2018年 第48週 (11月26日～12月2日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2018年 第48週 (11/26～12/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第46週 2類感染症 結核 1名 (90代 女)
- 第47週 4類感染症 レジオネラ症 2名 (60代 男 1名、70代 男 1名)
5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (70代 男)
侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (90代 女)
百日咳 1名 (20代 女)
風しん 1名 (40代 男)
- 第48週 2類感染症 結核 1名 (20代 男)
4類感染症 レジオネラ症 2名 (60代 男 1名、80代 男 1名)
5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (70代 男)
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名 (70代 女)
梅毒 1名 (20代 女)
百日咳 2名 (小学生 男 1名、高校生 男 1名)
風しん 5名 (20代 男 1名、40代 男 3名、50代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で88名 (定点あたり1.76→1.63人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 手足口病は、県全体で33名 (定点あたり0.63→0.61人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 流行性角結膜炎は、県全体で20名 (定点あたり0.58→1.67人) の報告があり、前週から増加しました。

【第49週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157：小学生 女) の発生がありました。(12月5日)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。(12月4日～7日)

1. **風しん**は、第48週に5名の報告があり、2018年第48週までの累計報告数は24名となりました。風しんは、妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国や岡山県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で88名 (定点あたり1.76→1.63人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市 (2.93人)、備前地域 (1.90人)、倉敷市 (1.73人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。
3. **手足口病**は、県全体で33名 (定点あたり0.63→0.61人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。特に、備北地域では、前週から定点あたり報告数が多くなっており (5.50人→4.00人) 発生レベル3が継続しています。この感染症は、4歳位までの幼児に多い急性ウイルス性感染症です。全国的には夏季に多く発生しますが、秋から冬にかけても多少の発生がみられます。3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などの中枢神経系の合併症を起こすことがあります。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。有効な治療法やワクチンはありません。患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒の励行など感染予防と拡大防止に努めましょう。
4. **流行性角結膜炎**は、県全体で20名 (定点あたり0.58→1.67人) の報告があり、前週から増加しました。特に、備前地域では、定点あたり報告数が前週の2.00人から14.00人と大きく増加しており、発生レベル3となっています。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼脂 (目やに)、

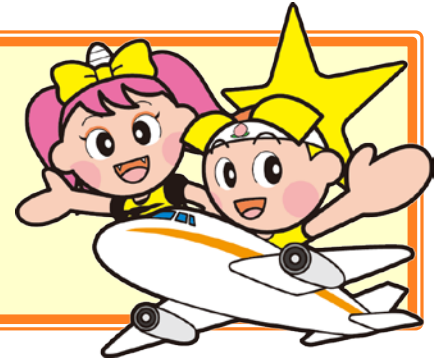
流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど感染拡大防止に努めてください。

5. **インフルエンザ**は、県全体で60名（定点あたり0.39→0.71人）の報告があり、前週から増加しました。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2018/2019年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

【お知らせ～年末年始に海外へ旅行される方へ～】

海外での感染症予防等の情報が、厚生労働省検疫所のホームページに掲載されています。

[海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）](#)



流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡	★	マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 増加 ➡：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

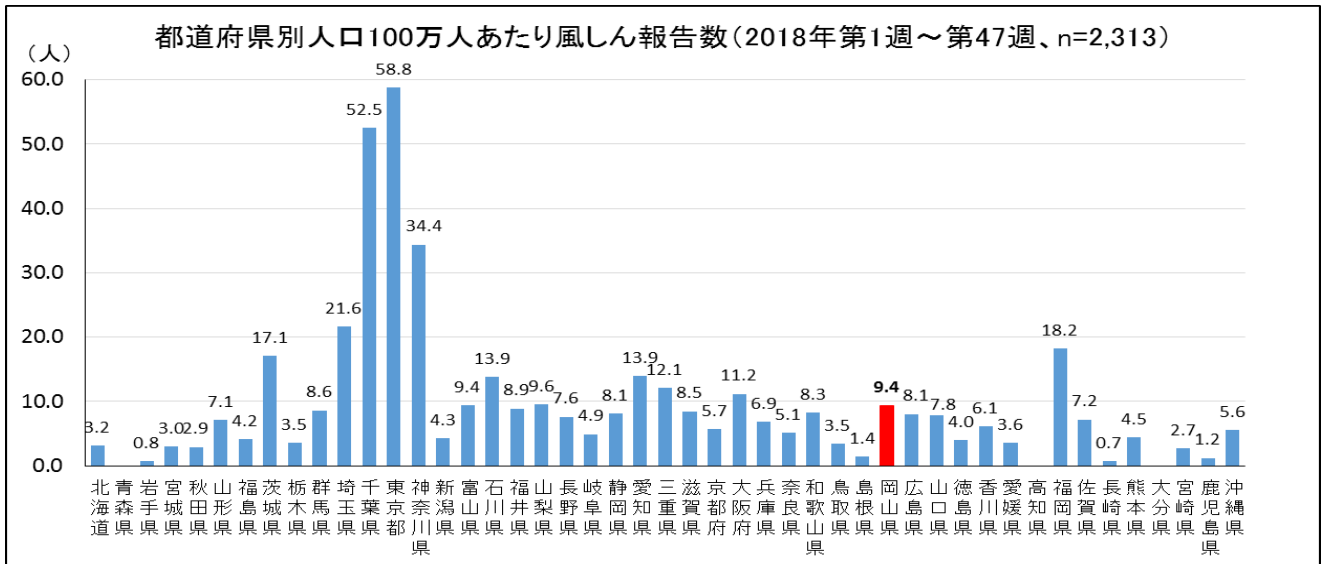
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しんは、全国に感染が拡大しています（第47週まで：2,313名、第48週まで（速報値）：2,454名。直近3年間では年間93～163名）。中国・四国地方では、第48週まで（速報値）で岡山県：24名、広島県：23名、山口県：14名、香川県：6名、愛媛県：5名などが報告されています。

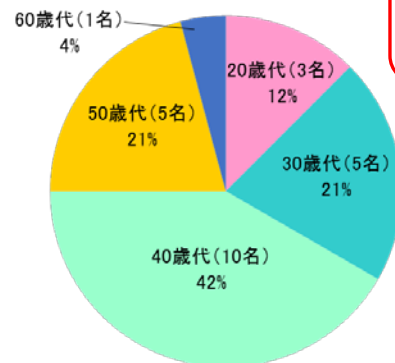
また患者は、男性が女性の4.5倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっています（男性患者全体の約8割）。

2018年第47週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で18.2人となり、東京都が58.8人で最も多く、次いで千葉県の52.5人、神奈川県34.4人、埼玉県21.6人、福岡県18.2人と続いています。岡山県は、人口100万人あたり9.4人となり、中国・四国地方では最も多くなっています。



岡山県では、2018年第48週までの累計で24名（男性23名、女性1名）の報告があり、年代別では40歳代が10名、30歳代および50歳代が各5名の順で多く報告されています。一つの事業所における発症事例の報告もありました。

岡山県 風しん年代累計割合
(2018年第1週～第48週、n=24)



全国の状況と同様に、男性の30歳代～50歳代がほとんどを占めています。

●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。

生まれてくる赤ちゃんのために

風しん抗体検査を受けましょう

無料

で実施しています。

妊婦の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群を、風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。

特に昭和37年度～平成元年生まれの男性と平成4年度～平成元年生まれの女性は、十分な免疫がないことが多いとされています。

無料抗体検査対象者

岡山県内に在住し、次のいずれかに該当する方

- 妊婦を希望する女性とその同居者
- 風しんの抗体価が低い妊婦の同居者

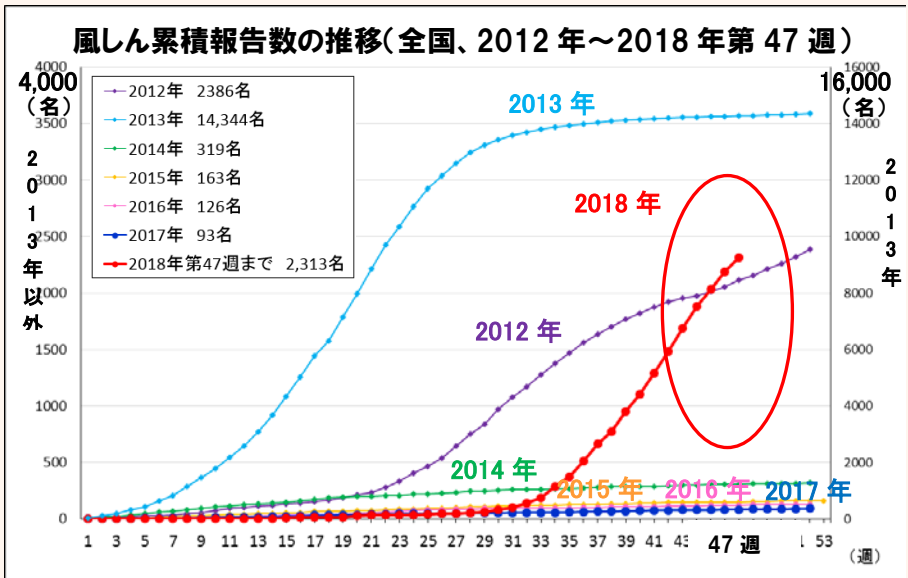
※1.妊婦本人、同居者、同居者以外の方
岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 岡山県健康推進課

岡山県に在住しない方
岡山市の無料抗体検査 無料時

※検査の料金は、検査料の支払い済みの場合は、予防接種を受けることを選択していただく限り、予防接種を受けていただく限りは発生いたしません。(標準報酬月額、一任費負担、等しくはお支払いの要は、お支払いの要は発生いたしません。)

風しんは予防する有効な手段がない人の割合が全国的に高くなる。地域での風しん感染に繋がります。

岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 086-226-7331



[生まれてくる赤ちゃんのために風しん抗体検査を受けましょう\(岡山県健康推進課\)](#)

詳細は・・・

(国立感染症研究所ホームページより)

[風疹急増に関する緊急情報\(2018\)\(国立感染症研究所\)](#)
[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)
[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

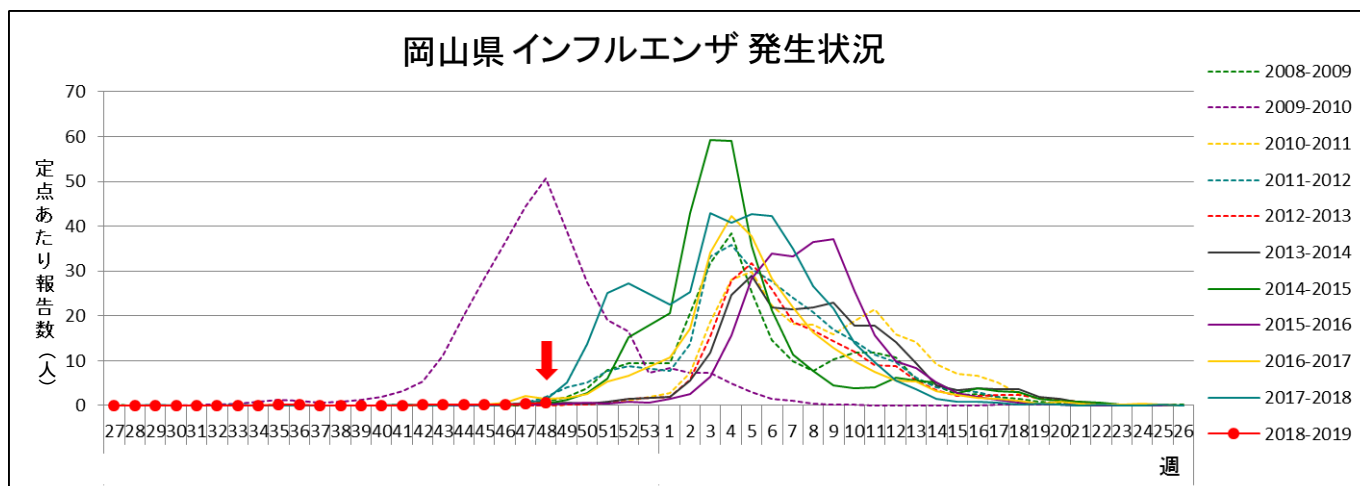
インフルエンザ週報 2018年 第48週 (11月26日～12月2日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で60名（定点あたり0.71人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。

【第49週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。（12月4日～7日）



インフルエンザは、岡山市で18名、備前地域で13名、倉敷市および備北地域で各11名などの報告があり、県全体では60名（定点あたり報告数0.71人）の発生となっています。

全国の第47週（11/19～11/25）の発生状況は、定点あたり報告数が0.52人であり、今シーズンに入ってから徐々に増加しています。都道府県別では、三重県（1.33人）、青森県および鹿児島県（各1.18人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、流行開始の目安（定点あたり1.0人）を超える都道府県は、4県となっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、岡山県では第39週に今シーズン初めての学校等の臨時休業が報告されており、全国でも、すでに第36週からインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が報告されています。帰宅後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2018年第47週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	60	▲	備 中	患者数	3	▲
	定点あたり	0.71			定点あたり	0.25	
岡山市	患者数	18	▲	備 北	患者数	11	▲
	定点あたり	0.82			定点あたり	1.83	
倉敷市	患者数	11	▲	真 庭	患者数	2	▲
	定点あたり	0.69			定点あたり	0.67	
備 前	患者数	13	▲	美 作	患者数	2	▲
	定点あたり	0.87			定点あたり	0.20	

【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 ➡：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

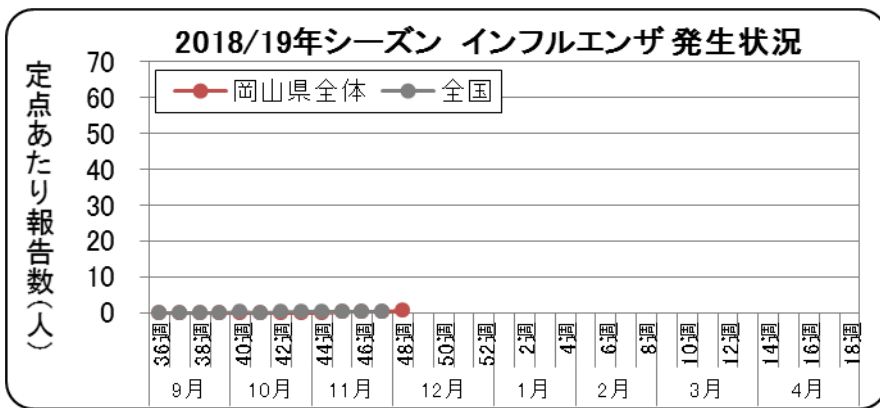
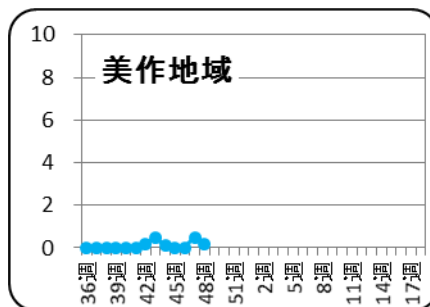
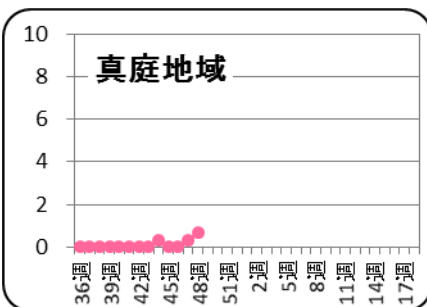
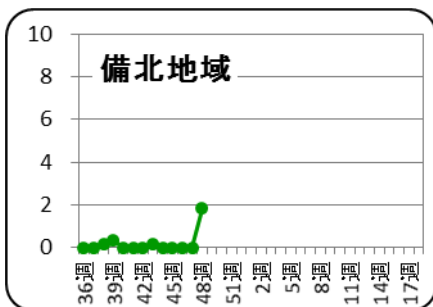
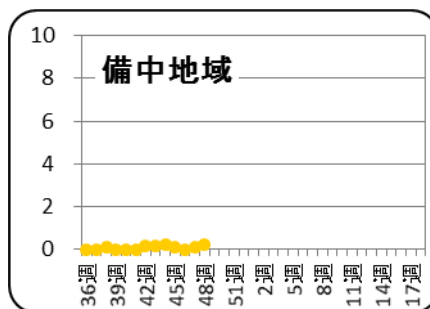
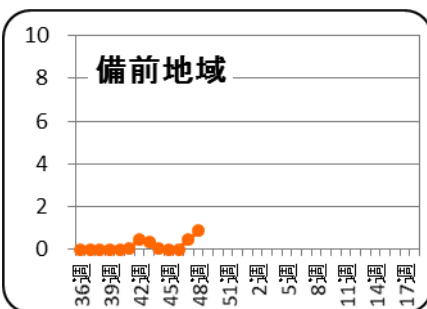
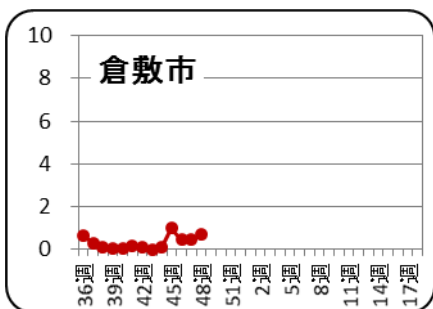
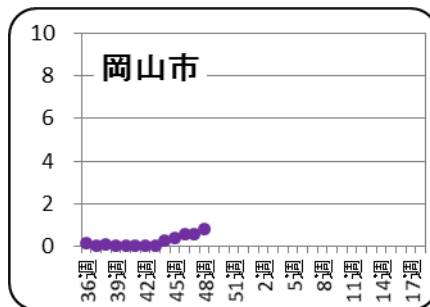
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

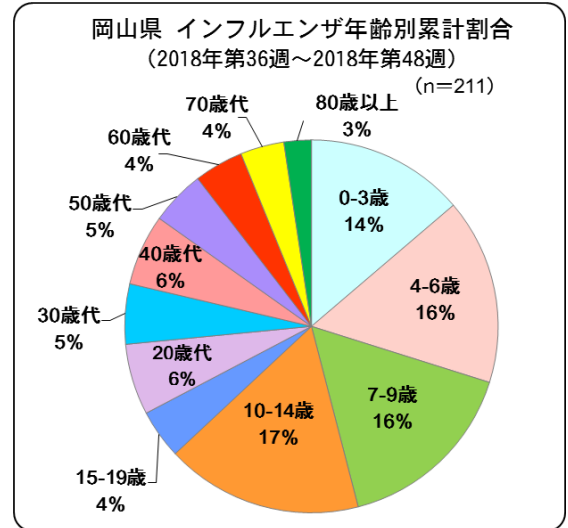


全国集計第47週(11/19~11/25)速報値によると、全国の定点あたり報告数は0.52人となり、前週(0.38人)から増加しました。都道府県別では、三重県(1.33人)、青森県および鹿児島県(各1.18人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

[インフルエンザの発生状況について](#)
(厚生労働省)

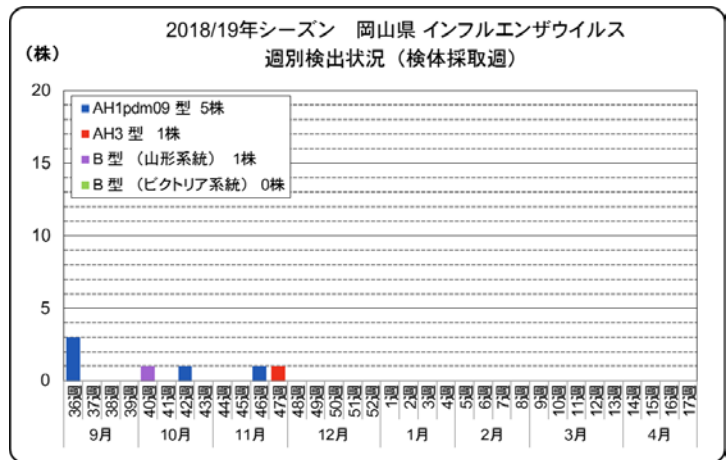
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別類型割合は、10-14歳 17%、4-6歳および7-9歳各 16%の順で高くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

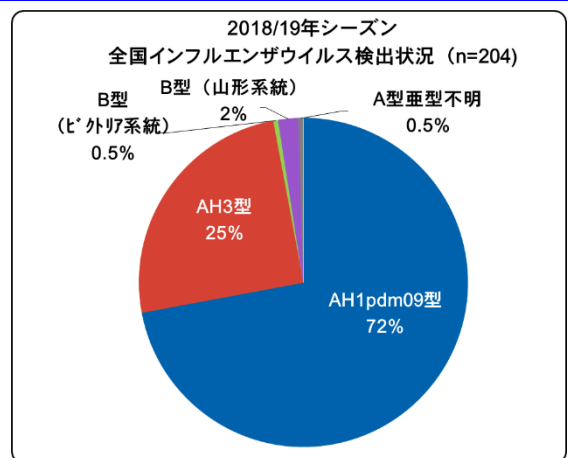
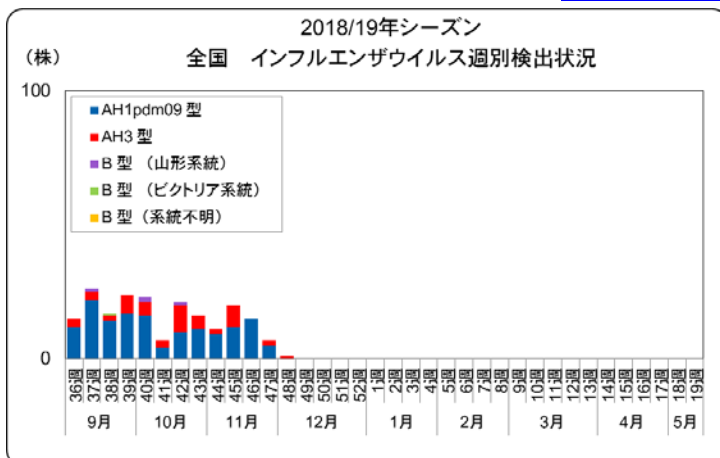
第48週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、2株（詳細は下表参照）でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは7株で、その内訳は、AH1pdm09型5株、AH3型1株、B型（山形系統）1株となっています。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3亜型	2018年第47週(11/19～11/25)	2018/11/21	岡山市	中学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第42週(10/15～10/21)	2018/10/19	備中	中学生	女	

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が147株、AH3型が51株、B型が5株〔山形系統4株・ビクトリア系統1株〕、A型亜型不明1株となっています（11月30日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)



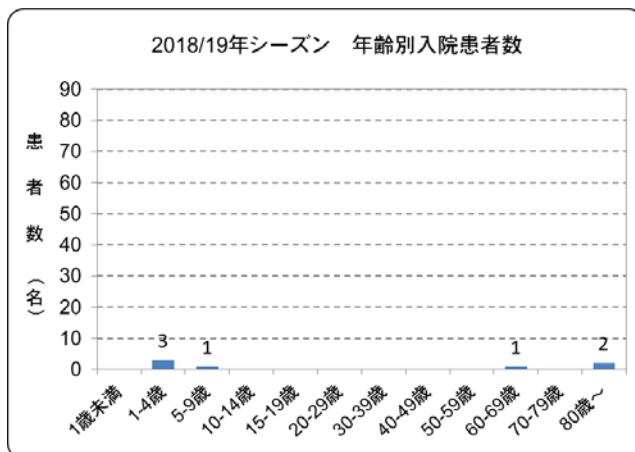
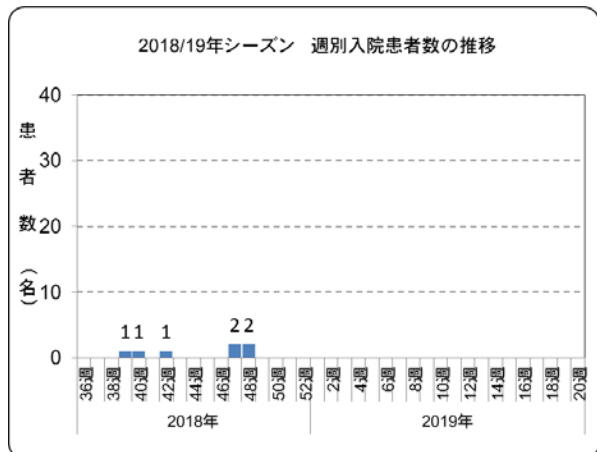
4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、2施設でありました（岡山市）。

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（60-69歳 1名、80歳以上 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数		3	1							1		2	7
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*												1	1
頭部MRI検査(予定含)*												1	1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		3	1							1		1	6

* 重複あり

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- ・ 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

* 65歳以上の方

* 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2018年 48週(定点把握)

(2018/11/26～2018/12/02)

2018年12月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	60	0.71	18	0.82	11	0.69	13	0.87	3	0.25	11	1.83	2	0.67	2	0.20
RSウイルス感染症	13	0.24	4	0.29	5	0.45	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	15	0.28	4	0.29	5	0.45	-	-	-	-	-	-	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	1.63	41	2.93	19	1.73	19	1.90	2	0.29	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	377	6.98	88	6.29	80	7.27	82	8.20	30	4.29	25	6.25	11	5.50	61	10.17
水痘	20	0.37	13	0.93	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	33	0.61	9	0.64	5	0.45	1	0.10	1	0.14	16	4.00	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	18	0.33	10	0.71	2	0.18	2	0.20	3	0.43	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	6	0.43	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	1.67	3	0.60	2	0.50	14	14.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 48週(発生レベル設定疾患)

(2018/11/26~2018/12/02)

2018年12月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	60	0.71	18	0.82	11	0.69	13	0.87	3	0.25	11	1.83	2	0.67	2	0.20
咽頭結膜熱	15	0.28	4	0.29	5	0.45	-	-	-	-	-	-	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	1.63	41	2.93	19	1.73	19	1.90	2	0.29	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	377	6.98	88	6.29	80	7.27	82	8.20	30	4.29	25	6.25	11	5.50	61	10.17
水痘	20	0.37	13	0.93	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	33	0.61	9	0.64	5	0.45	1	0.10	1	0.14	16	4.00	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	6	0.43	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	1.67	3	0.60	2	0.50	14	14.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第48週 2018/11/26～2018/12/02)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	60	-	-	4	2	4	1	2	4	4	2	2	7	4	3	5	3	3	3	5	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	13	5	1	2	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	15	1	-	6	1	2	2	-	-	-	2	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	88	-	-	2	-	6	6	13	10	17	5	9	11	1	8
感染性胃腸炎	377	10	19	52	40	28	30	30	15	20	19	6	37	11	60
水痘	20	-	-	3	3	2	4	2	1	-	-	1	3	-	1
手足口病	33	1	1	13	6	6	-	1	1	-	2	-	2	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
突発性発疹	18	-	3	12	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	1	1	4	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	20	-	2	4	2	1	1	1	2	1	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

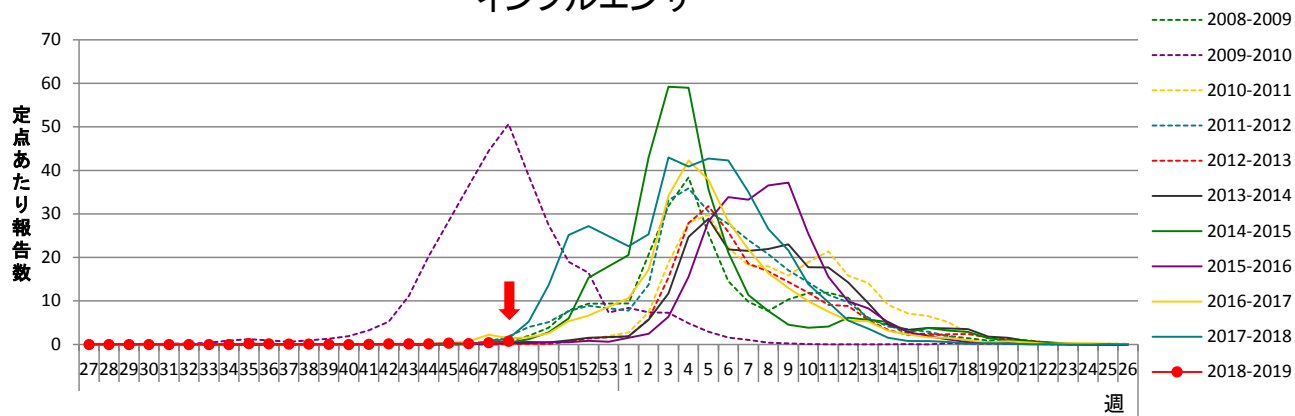
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

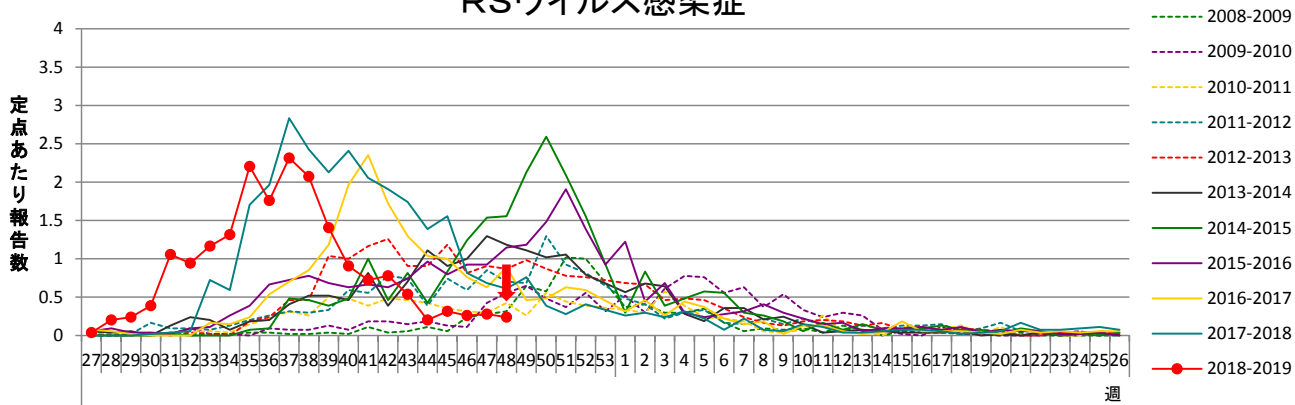
2018年 48週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	298	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	16	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	69	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	76	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	5	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	23
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	3	-	急性脳炎	-	6	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	14	9	後天性免疫不全症候群	-	15	22
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	41	36	水痘(入院例に限る。)	-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	148	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	2	159	-
風しん		5	24	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

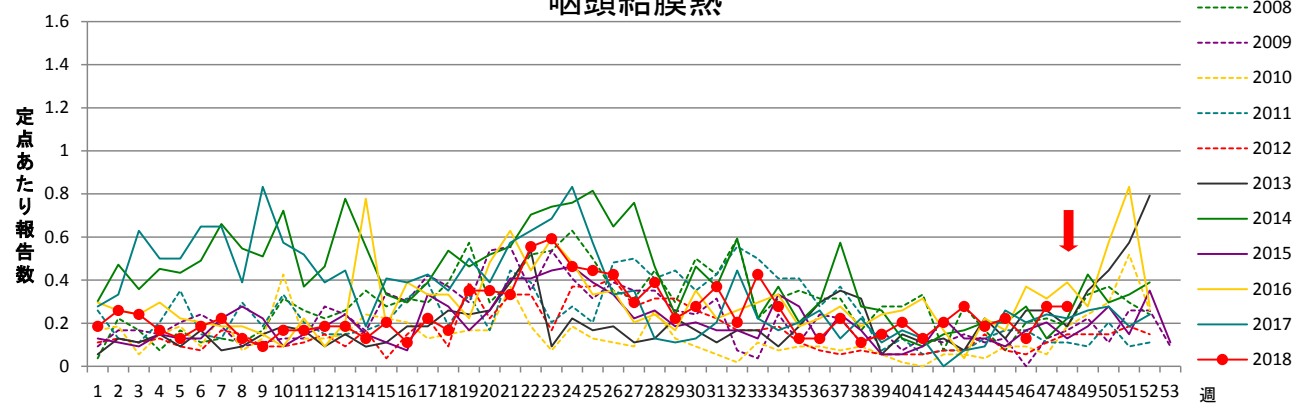
インフルエンザ



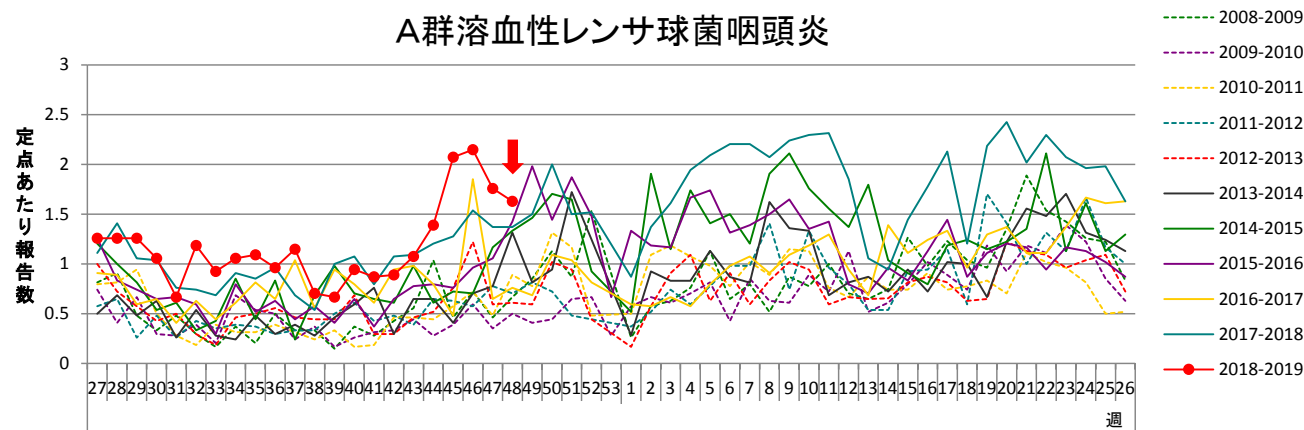
RSウイルス感染症



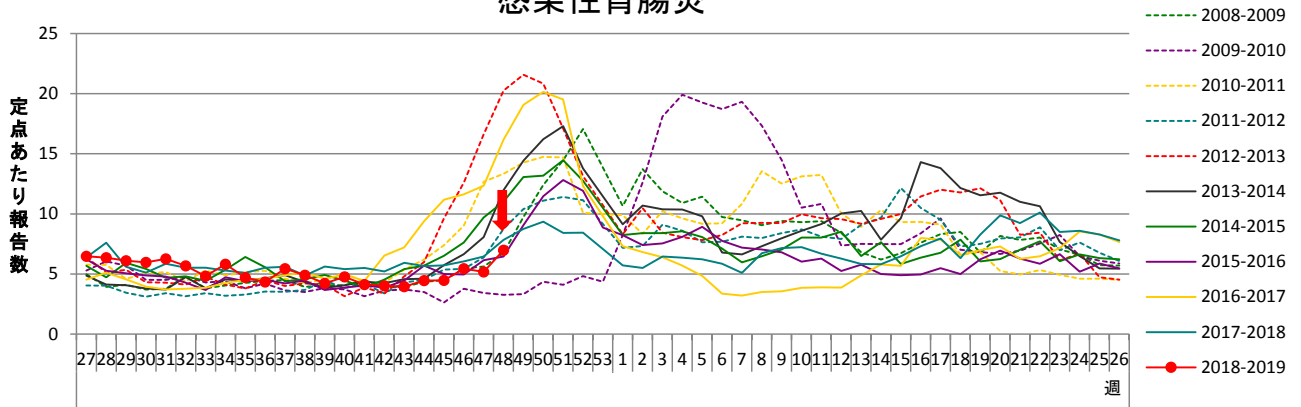
咽頭結膜熱



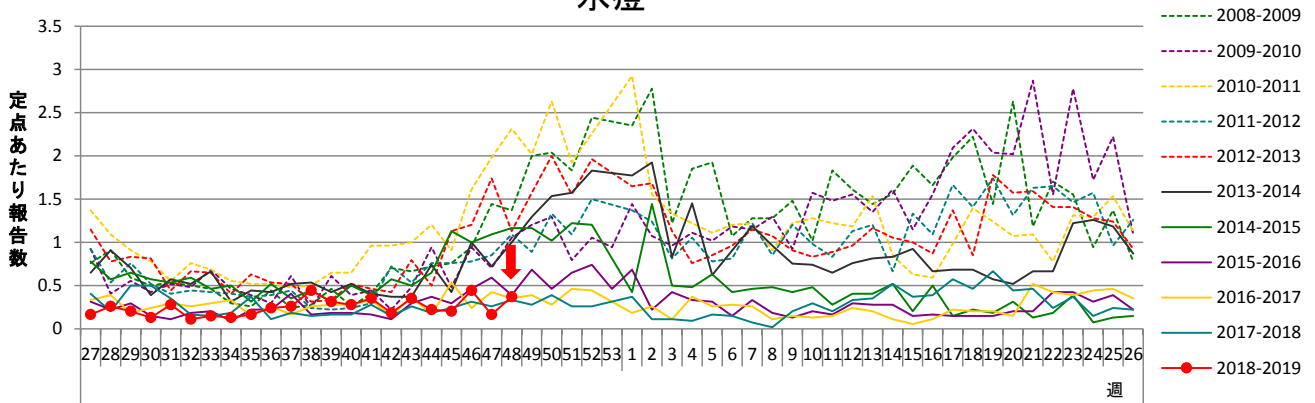
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



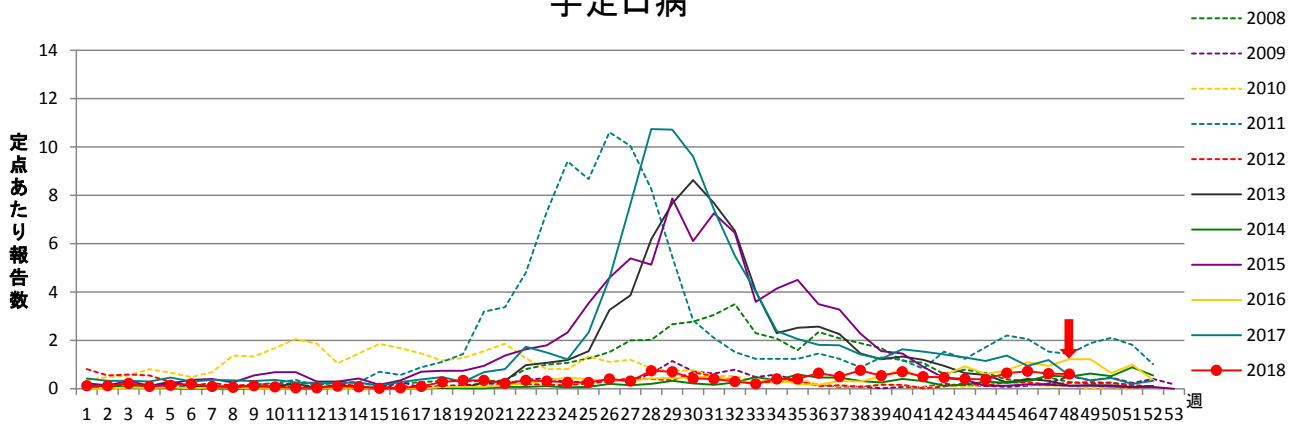
感染性胃腸炎



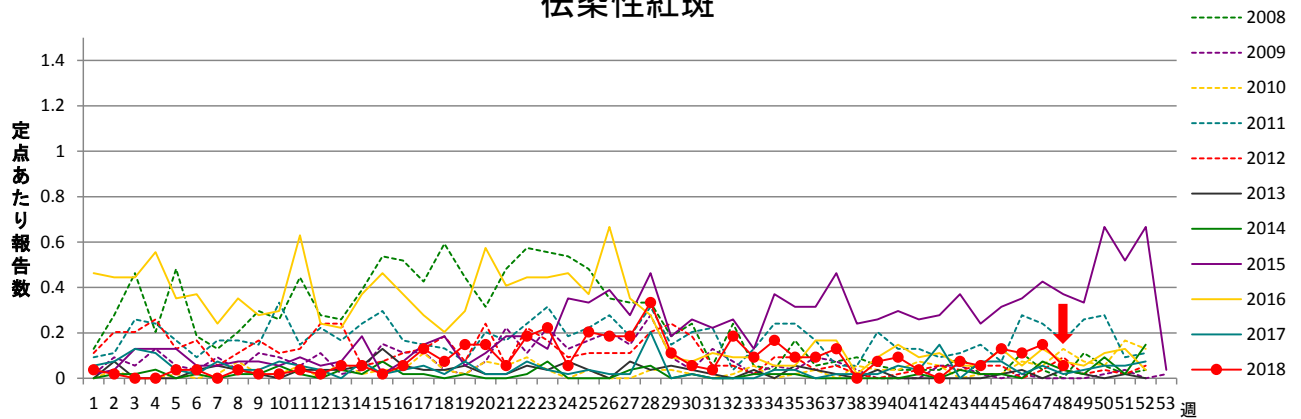
水痘



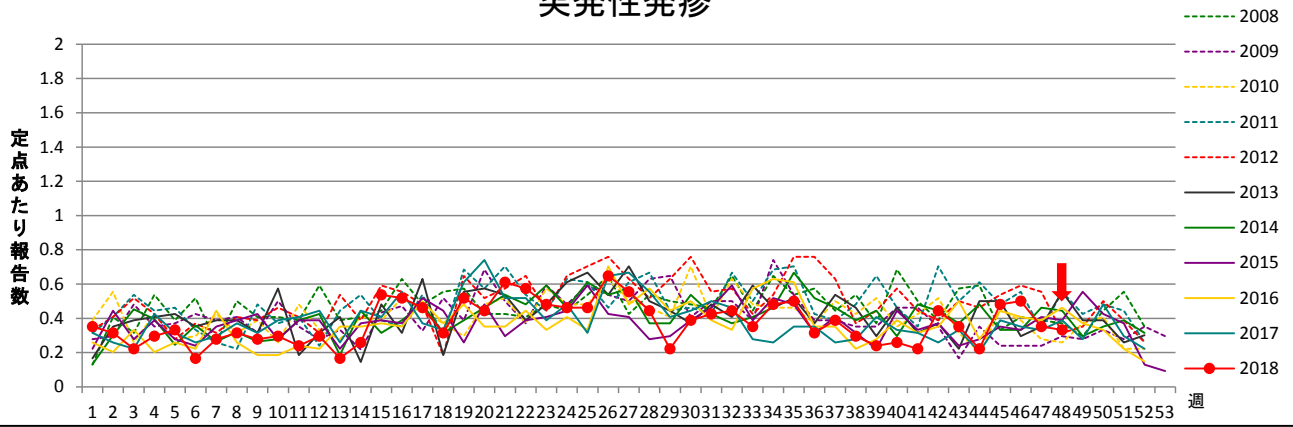
手足口病



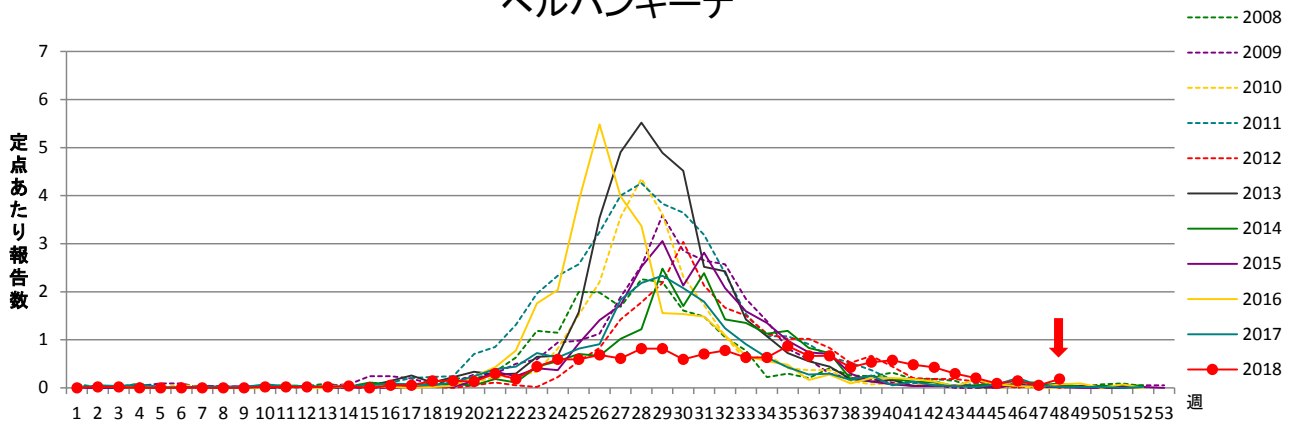
伝染性紅斑



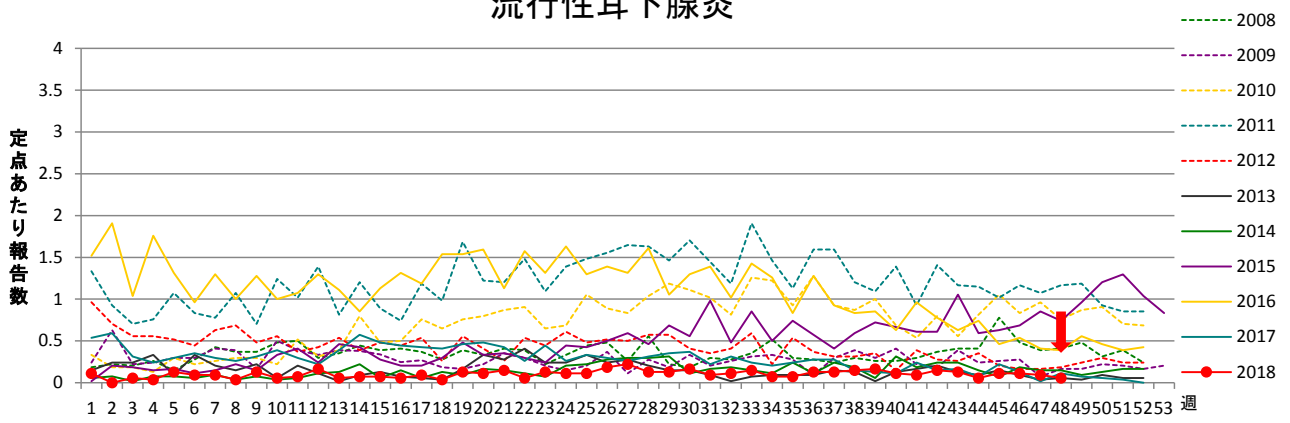
突発性発疹



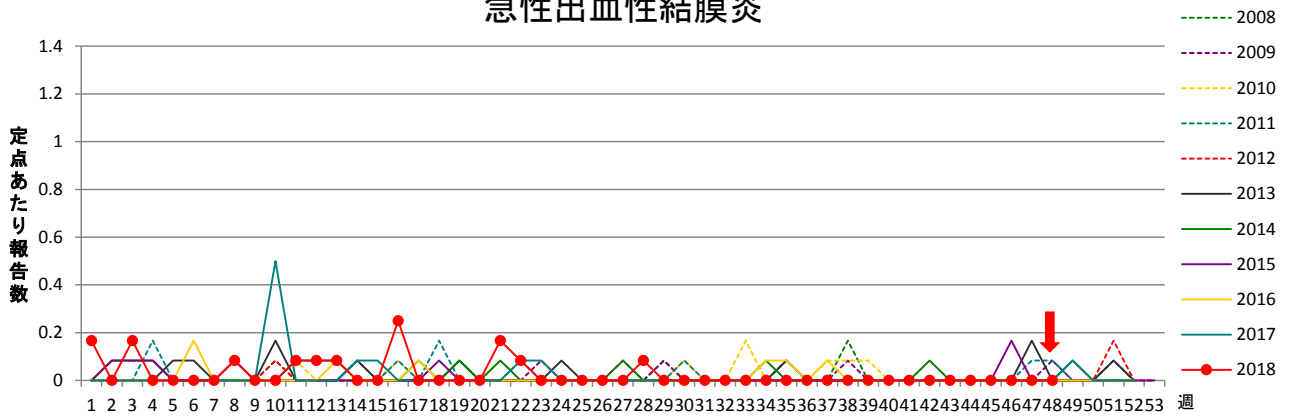
ヘルパンギーナ



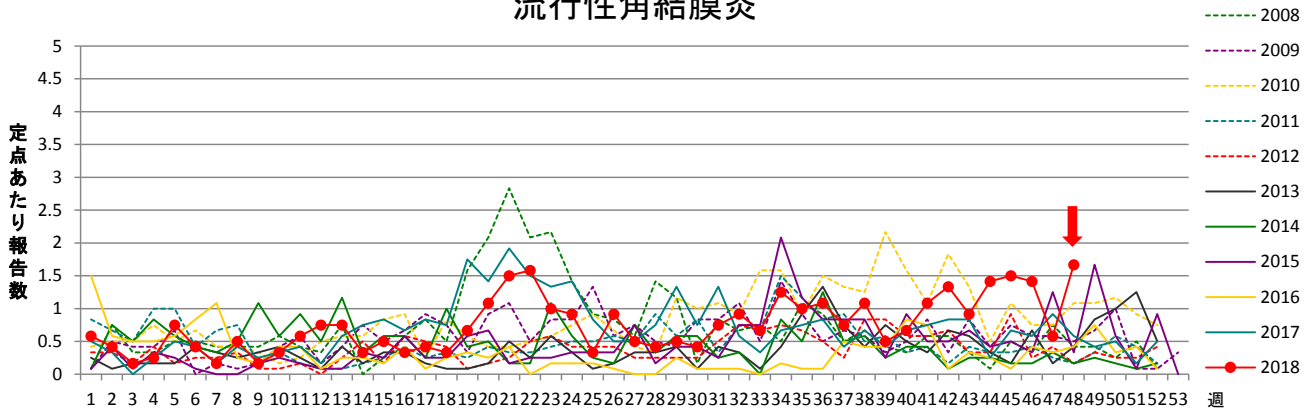
流行性耳下腺炎



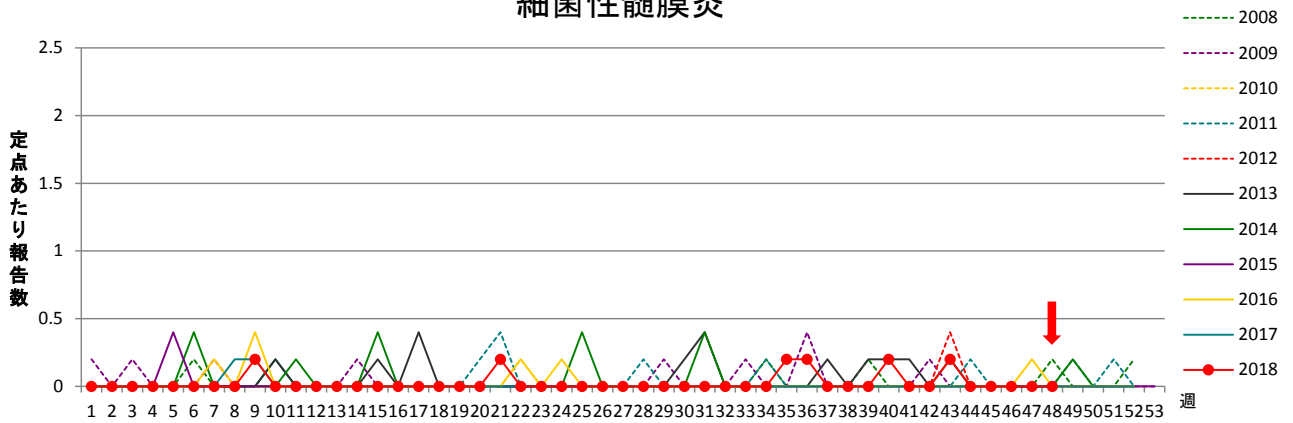
急性出血性結膜炎



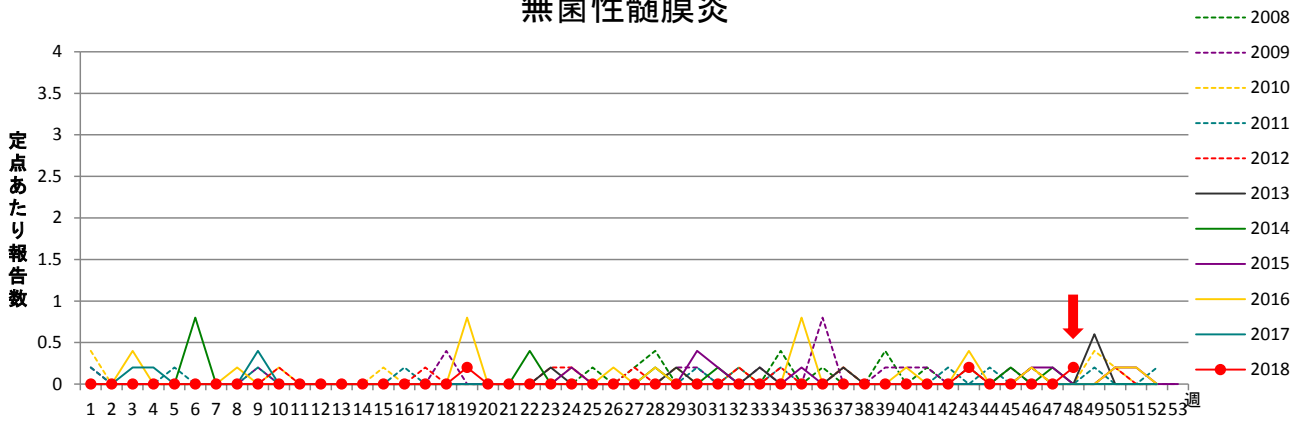
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎

